

<家庭学習ノートはダイヤモンド磨きになっているのか？>

10月2日5時半から階段教室で開かれた第97回学校づくりフォーラムでは、生徒から問題提起として以下の3点が出されました。

- ①カバンの破損実態について→教科書等が重いので置き勉を認めてほしい
- ②家庭学習ノートのルーズリーフ使用を認めてほしい
- ③女子のリボンの実態について 看護科生徒の約半数が落としたことがあるので改善を

①と②は家庭学習の在り方に関する基本的な議論を含んで生徒・教員・保護者それぞれから活発な意見が出されました。議論を聞いていて思うところが多々ありました。確かに登下校の看護科の生徒を見ていると、小柄な生徒は大きくて重そうな「カバンが歩いている」状態です。「ノートかルーズリーフか」に関しては考え方の違いが表面化し、着地点は混沌としているようでした。

ところで、今年2月21日の学校づくりフォーラムでは家庭学習について話し合わせ、先生方や生徒たちの発言から、家庭学習ノートが以下のような役割を持っていることを感じました。

- ①主に基礎的な分野の「定着・習熟」をめざす
- ②興味・関心に基づいた「探求」の機会
- ③先生の書き込みをもとにした先生と生徒の交流

*「伝々夢詩」第34号より再掲

今回のフォーラムでは家庭学習ノートが看護科で始まり、普通科にも導入され、それは家庭学習の習慣化を意図したことが紹介されました。(つまり上記の①)そのため、「後で教科別に整理するにはルーズリーフが便利」という生徒の意見と、「受け取りに不便」「ルーズリーフではためてしたり、不正があるからノートが基本」という先生方の意見はかみ合わないまま時間切れとなったように感じました。

最後に1年生のフォーラム委員が「家庭学習は自己責任で行うべきもので、強制されるものではないはず。強制では指示待ち人間を作るだけで、学校が言っているダイヤモンド磨きにならないのではないか。」という主旨の発言をしたのがとても印象的でした。

確かに家庭学習の習慣化は大切です。いわゆる「基礎・基本」といわれる部分の定着・習熟には反復練習や継続学習が必要な面があります。私も大学受験のため「微分・積分」分野で多用される「式と計算」分野を必死に練習したことがあります。私から見れば難解としか思えないルールを駆使してゲームに没入する子ども達をみることがあります。本人が意義を見出せば例え恐怖の千本ノックも取り組む課題になるのでしょうか。要は、家庭学習の習慣化の鍵は「定着・習熟」を学習の意義と結びつけることではないでしょうか。

別の面から考えてみると、習慣化される学習は学習の進展や学習の質の発展によって変化するものです。単なる反復によって得られた習熟が学習への取り組みを変化させたなら、反復練習の課題も生徒によって変わってくるのではないのでしょうか。看護の生徒が教科別に分類したいという意識を持ったり、ノートのある部分は保存しておきたい、という意識が芽生えるのは「与えられた課題」から「自ら取り組む課題」への転換を示しているように感じました。スタートとしては「一律」のルールがあっても良いと思いますが、本来は自分で取り組むべき家庭学習の実態ができてきた生徒には、「自分の成長・発達に自分自身が契約を結ぶ」学習への転換を促していく方向性を模索したいですね。

もともとは①を意図した家庭学習ノートが、②や③の役割を担ってきましたが、④として生徒の視点を加味するとどうなるのか？継続して議論を積み重ねたいと思います。